

■中国：蓄電池大手 CATL、日本で住宅向け蓄電池事業を開始

2019年7月26日付の地元紙によると、中国の大手電池メーカーの寧徳時代新エネルギーテクノロジー（CATL）が、日本で太陽光発電等の自然エネルギー関連事業を手掛けるネクストエネルギー・アンド・リソース株式会社と住宅向け蓄電池の開発・販売における業務提携契約を締結した。両社は、CATLの定置型リン酸鉄系リチウムイオン電池（LiB）と太陽光発電設備を組み合わせた、設置費用が従来品の約4分の1となる安価な発電システムを、2020年までに開発および販売する予定である。CATLは2011年に中国福建省で設立された民間企業で、2019年6月末時点の同社蓄電池生産能力は1,310万kWhで、2017年には車載電池の出荷量でパナソニックを上回り、世界最大となっている。